2026年3月期第1四半期決算
投資家向け説明会質疑応答録

日時:2025年8月7日(木)

登壇者:取締役 専務執行役員、CFO 兼 CISO 兼 GCO、財務統括 兼 管理統括 兼 法務統括
後藤 芳光

常務執行役員、CAO 兼 CSusO、経理統括 君和田 和子

SB Investment Advisers & SB Global Advisers, Executive Managing
Partner & CFO, Navneet Govil

Arm, VP Investor Relations, Ian Thornton

質疑応答

質問者1

Q1:

自社株買いを、前回のよう最後に株を買い上げるような買い方ではなく、上限に未達のまま終了したのは、とても良かったと思う一方で、この動きが意味するところを教えてください。また、LTVを25%未満に守る一方で、巨額の投資ないしは支払いが控えています。今後よほどマーケットが落ち込んだ時以外、自社株買いはしばらくしない可能性が高いと考えてよいのでしょうか。

A1:

(後藤) 今回取得枠を残したまま自社株買いを終了したことが、次の自社株買いは当面ないというメッセージではありません。今後もタイミングを見ながら、実施するタイミングだと思った時には、機動的に実施していきたいと考えています。LTVの維持を優先したかということ、それも一つのテーマではあります。ただ、それだけを考えて行ったわけではなく、今回はこの自社株買いのミッションは達成できたということで、自然体で終了を迎える方が、今後に向けてもより良いだろうと考えました。

Q2:

一連のOpenAIへの投資を終了した時、御社の保有割合はどのくらいになるのでしょうか。今回かなり高い評価額で従業員からの売却が検討されているという報道もありました。御社の支払いが完了するまでにそうしたイベントが起こった時、御社の保有割合はレンジでどのくらいとなると考えれば良いのでしょうか。御社の将来的なNAVを考える上で参考にしたいです。

A2:

(後藤) OpenAIは、公益法人(Public Benefit Corporation(PBC))への移行前なので、比率もま

だ固まっています。イメージはありますが、今コメントすべきではないということで非開示とさせていただきます。もう少し進捗がありましたら、皆様にお話できるタイミングが来ると思いますので、少々お時間いただければと思います。

Q3:

報道にあるようなイベントが仮に起こった場合、そのパーセンテージはどう影響を受けるものでしょうか？

A3:

(後藤) 現時点では憶測に基づく記事へのコメントは控えたいと思います。

質問者2

Q1:

Stargate Project の考え方を整理させてください。Oracle と OpenAI が \$30billion の大型年間契約を結びました。1 件あたりは大体このくらいの規模の計画になるのでしょうか？また報道では OpenAI と Oracle の 2 社で進められたということで、ソフトバンクグループが入っていなかったことに意外感がありました。貴社が入っていくのはまだこれからかと思うのですが、年始に孫さん(孫 正義 代表取締役 会長兼社長執行役員)が発表したところから、やや足並みがそろわなくなっているように見えました。現時点での御社が進めている Stargate Project、または Stargate Project 全体の考え方を改めて整理させていただけますと幸いです。

A1:

(後藤) Stargate Project の基本的な枠組みは何も変更はありません。今年の初めに孫が申し上げた通り、OpenAI と私達が中心となり、そこに Oracle 等も入ってきますが、中心はあくまで我々と OpenAI で \$500B を 4 年で実現していきたいというのがメッセージであり、これに変更はありません。それぞれのメンバーが Stargate Project をやるからといって、これだけしかやってはいけないというわけではありませんので、それぞれが独自のインフラもしくはデータセンター等の投資を行うこともありますし、そういった発表もあるかもしれません。ただ Stargate Project の骨子は何も変わっておりませんので、そこはご理解いただければと思います。ちなみに規模でいうと 10 ギガワットクラスのプロジェクトとしてやりたいと、先日のソフトバンクワールドで孫とサム・アルトマン(Sam Altman, OpenAI CEO)がお話していました。

質問者3

Q1:

アーム編 3 ページの Q1 利益増減について、Non-GAAP Operating Expense が増加しているこ

とから、研究開発の加速に向けた投資を増やしているようですが、具体的にどういった領域の R&D を増やしているのでしょうか？

A1:

(Thornton) AI をサポートするための技術開発投資を大幅に拡大しています。特に、次世代 CPU およびコンピュータ・サブシステム(CSS)の開発に注力しています。先ほどのプレゼンテーションで申し上げたとおり、自動車分野向けに特化して設計された新しい CSS を最近発表しました。各 CSS には、およそ 500 名の専任エンジニアが関わっています。過去数年間、当社は年間約 1,000 名のエンジニアを新たに採用しており、今年もさらに 1,000 名を追加採用する予定です。その多くは、当社の CSS の強化、または高度な AI 機能を CPU へ統合する業務に従事しています。

Q2:

Arm の Q1 のカンファレンスコールでマネジメントから、トラディショナルな IP ビジネスからモデルを変え、例えばチップレットやソリューションにも入っていくとのお話がありました。またソフトバンクグループと密に協業しているということで、IP の CPU アーキテクチャから、実際の半導体ビジネス、あるいはその先のソリューションを最終プロダクトまでやるとおっしゃっていたのですが、その時間軸を教えてくださいませんか。

A2:

(Thornton) レネ(Rene Haas, Arm CEO)とジェイソン(Jason Child, Arm CFO)が話したのは、私たちが活用しようとしている 2 つの大きなトレンドについてです。1 つ目は市場のトレンドです。Arm の顧客基盤は、従来の半導体企業から拡大し、OEM、クラウドサービスプロバイダー、自動車メーカー、さらには政府機関にまで広がっています。これらの顧客は非常に複雑なチップを開発しており、Arm からのより多くのサポートを求めています。彼らはチップ設計のより良い出発点を望んでいます。CSS のもともとの発想は、この「より良い出発点」への需要に応えるものでした。2 つ目は技術的なトレンドです。企業の新しい種類のチップの採用が進んでいます。例えば、ご指摘のチップレットがあります。チップレットは、小型で特化したチップを複数組み合わせ、1 つのパッケージ内でより大規模かつ複雑なシステムを構成するものです。現時点でも、これらのチップレットの中にはほぼすべてが Arm の技術で作られているものがあります。機能的な観点では、CSS と非常によく似ています。Arm では現在、興味を持つ顧客向けにチップレットを提供することや、さらにそれをフルソリューションとして提供することについて検討しています。ただし、最終的な決定はまだ行っておらず、現時点で新製品を発表する予定はありません。

Q3:

プロダクトはまだ発表されていませんが、チップレットやソリューションはやっている、もう決断しているというようなことをおっしゃっていたかと思うのですが、確認させてください。

A3:

(Thornton) 検討を進めることは決定しましたが、特定の製品に関してはまだ何も決定していません。チップの開発は非常に難易度が高く、多くのエンジニアと長い時間を必要とします。私たちは、そのような取り組みに伴う作業規模や複雑さを十分に理解しています。社内にはチップを開発するための専門知識と必要な技術へのアクセスがありますが、この検討が最終的に実際の製品につながるかどうかは、まだ決まっています。

質問者4

Q1:

「レイトステージ」とされる企業は、市場環境が良いと仮定した場合、通常、IPO までどのくらいかかるとお考えですか。

A1:

(Govil) 通常、私たちが「レイトステージ」と言う場合はシリーズ E 以降を指し、IPO まではおおよそ 12 カ月から 24 カ月の期間を想定しています。

Q2:

これには OpenAI も含まれると理解してよろしいでしょうか。

A2:

(Govil) はい、ご理解のとおりです。

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下 SBG と併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。証券の募集、購入の申し出の勧誘、又は証券の売出しは、1933 年証券法(その改正を含む。以下、「証券法」という。)の登録要件に従って行われます。本資料に含まれる情報は、証券法ルール 135 に従って記載されるものです。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、アーム及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ-SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設定又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や LINE ヤフー株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券と同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社(以下併せて「SB ファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」)、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」)及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SB ファンド(ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等)を含み

ます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。